

吉野川を釣る！【番外編】

(帰りに少し寄った高知県 甲浦^{かんのうら})

こんにちは、さすらいの釣り人系河川管理者のNです。趣味のルアーフィッシングを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私は、ルアーでいろいろな魚を釣ることを趣味としていて、現在までに280種ほどの魚（淡水・海水・軟体動物含む）を釣っています。

今回、徳島に本当に久しぶりに勤務することとなりましたので、「吉野川でルアーにより何種類釣れるのか」に挑戦してみたいと思います。

と、書いておりますが今回は、**番外編で2019の夏の終わりに室戸へ遠征したときの釣果**をご紹介します。

まえまえから書いておりますが、私はルアーで珍しい魚を釣ることを趣味としております。

足摺^{あしずり}岬には、何度も釣りに行ったことがありますが、室戸岬には観光はあるものの、釣りに行ったことがありませんでした。室戸岬には黒潮が接岸することがあり、秋には南方系の魚がいるのではないかと思います遠征に行ってみることとしました。

しかし、2019年は台風が週末毎に来襲し、なかなか機会がなく、この時も台風16号が直ぐ近くまで来ていて、本当に釣ってみたかった地磯回り（外湾の岩場）には近づくことさえ出来ませんでした。



(高知県甲浦)



仕方が無いので、漁港の雨風が防げるところでちまちまと小魚と戯^{たわむ}れて来ましたので報告します。

本当は、トロピカルな夏の海で色とりどりの熱帯魚と遊ぶつもりだったのですが、波がうねりを伴って海岸に打ち付け、そのせいで海は土茶濁り、軽いルアーを投げようものなら、強風で押し戻され、自分の所に戻ってしまいそうな勢いでした。

そんな天気でしたが、サーファーは大喜びのようで京阪神ナンバーの車が駐車場に入りきれない程沢山いました。

仕方が無いので、室戸市の^{むろつ}室津漁港までほぼ寄り道なしに行くことに！

室津漁港に到着し、期待を持って海中を確認しますが、うねりが港の一番奥まで来ていて、水の色も濁りが入り魚の姿も見えません。

気を取り直して、重めのジグを付けて第一投。漁船を直すためのスロープ際を攻めました。すると一投目からスズキラしきものが数匹アタック。残念ながらヒットはしませんでした、やる気が急上昇。

ルアーを取っ替えひっかえ同じ場所を狙いましたが、ヒットすることはありませんでした。

その後、港内をジグで探るとポツポツとメッキがヒットします。

メッキとは、ヒラアジ類幼魚の総称で通常は、ギンガメアジ、ロウニンアジ、カスミアジ、オニヒラアジ等のことをいいます。

右の写真の違いがわかりますか？

上から「ロウニンアジ」、「ギンガメアジ」、「カスミアジ」です。慣れてくると顔つき

ヒレの色等から同定出来ますが普通はメッキで通用します。

釣り方は、ジグをなるべく早くトゥイッチ（細かくしゃくる）することです。

ただ巻でも釣れますが、しゃくりを入れるとより釣れます。群れで回遊しているので、スレさせないようにルアーの色とか種類とかを変えると数を伸ばせます。

今回は、珍しい魚狙いなので余り釣りませんでしたが、専門に狙うと良く引いて、美味しいターゲットです。



15cm 程のロウニンアジ



15cm 程のギンガメアジ



20cm 程のカスミアジ

それから港の先端付近で、少し大物狙いをしましたが、当たりすらなく、夕方になり水揚げ場(魚を並べて競売するところ)に移動し、根魚(ガガネとかハタみたいな底に棲む魚)でも狙おうと思いい底をジグで小突きます。

するとコツコツと当たりますが、ヒットしない当たりが続きます。

諦めずに探っているとズ〜ンとヒットしました。引きは強くはないがまあまあ重いので期待を上げてみると、水を含んで膨らんだ、フグの仲間の「キタマクラ」でした。

また気を取り直して、底を小突いていくと今度は、ガツンと明確な当たりとともに地球を釣ったかのようにビクとも動きません。道糸PE0.5号リーダー1.5号では無理は出来ません。

慎重に水面まで浮かせると、ちょいマシなソゲ(40cm までのヒラメはソゲと呼びます)でした。小物狙いだったので網は車の中です。仕方が無いので運を天に任せて抜き上げます。写真を撮ろうと思ってヒラメに手を伸ばすと、「うぎゃ」その時悲劇が.....

ルアーを付けたヒラメが大きく跳ねましたが、そのまま手の下にぶら下がっています。少しの間何が起こったのか分かりませんでした。「そうです。」飛び跳ねた瞬間に指にルアーの針が刺さり、指とヒラメをくっつけていたのです。

ヒラメをぶら下げたまま、ペンチを探し強引に引き抜きました。針がかえし以上に刺さると時間が経てば立つほどなかなか抜けなくなりますので、早めに病院に行くことをお勧めします。



すっかり戦意喪失して、コンビニで夕食と絆創膏を買って車で夕食。絆創膏で指を固め、気を取り直して夜の部に向かいました。

夜の部は、室津港水揚げ場の明かりがあるあたりで、メバルタックル+ジグヘッドワームで開始します。明かりと影の境を探ると早速当たりがあり、10cm ほどの「オオスジイシモチ」が釣れました。

イシモチ類は、南の方の夜釣りの定番で、愛媛南部、高知西部では、ネンブツダイとクロホシイシモチがよく釣れます。



15cm 程のキタマクラ



酷い目に遭わされた37cmのヒラメ



10cm ほどのオオスジイシモチ

オオスジイシモチを拾いながら、探っていくと、少し毛色の変った魚が釣れました。

「ヨコスジイシモチ」です。縦に筋が入っていますが、魚の名前は、背びれから胸びれ方向に筋があるものをヨコスジ〇〇と呼びます。

この魚も南の海では、割とポピュラーです。同じ種類しか釣れないので、少し場所を移動し、突堤となっている部分を探ってみます。ここは、先端に強力なライトがあり、流れもあり、違う魚が潜んでいそうです。



7 cm ほどのヨコスジイシモチ

ここでも、ライトの明暗部を狙います。すると表層で当たりが出て、また違う魚が釣れました。

「ミナミハタンポ」です。この魚も南の海では結構釣れますが、いるところといないところがハッキリしていて、いるところでは、これしか釣れないイメージがあります。

この場所では、ミナミハタンポが良く釣れましたが、他の魚は釣れません。



6 cm ほどのミナミハタンポ

そこで、新たな魚を求めて狙い方を変えてみることにしました。

今までは、表層から中層をメインに探っていましたが、今度は下層から底中心に狙いを変えます。

底を狙いますが、台風接近に伴い、風・うねりが強く、当たりが取りにくい状況が続きます。また、イシモチ類と遊びながら、新しい種類が釣れるのを待ちます。

本当の底で、赤い魚が釣れました。アカマツカサ属の魚です。アカマツカサ属の魚は、日本には少なくとも15種類もいて、それもほぼ同様の色・形態でさらに色彩変異も大きいのです。



同定が困難なアカマツカサ属の魚

いろいろ検索をしてみました。同定には至りませんでした。どなたか、名前の分かる方いらっしゃいませんか？

取りあえず、私としては、「アカマツカサ属」としておきます。アカマツカサ属の魚は、珊瑚礁に多い種類で、沖縄の港の夜釣りでは良く釣れます。

次も底を狙っていて釣れた「ニジエビス」です。私のなかでの久しぶりの海水魚新種となりました。

この魚も南方の珊瑚礁に多く似た種類が沖縄の港の夜釣りでもよく釣れます。

ここで、雨が強くなり夜も遅くなったので、終了して車中泊することとしました。

本来であれば、まだまだ色々な種類が釣れたと思いますが、泣く子と台風にはかないません。泣く泣く撤収となりました。また今度天気の良い日にリベンジすることを誓い。遠い遠い道程を風に煽られながらやっとの思いで徳島へたどり着きました。

今回は、少しマニアックな海水の小物釣りの様子をご紹介しましたが、四国南東部は、黒潮の影響により日本有数の魚種を誇り、ルアーフィッシングの対象魚も沢山いますので、みなさんも釣りに行って見て下さい。



初めて釣った「ニジエビス」

<タックルデータ>

ロッド：メバルロッド 8.5 f (約 2.6 m)

スズキロッド 9.6 f (約 2.9 m)

トラウトロッド 5.0 f (約 1.5 m)

リール：ダイワ 2000~4000 番

ライン：PE 0.3~0.8 号 or 700 番 0.5 号

今回、種数狙いとは関係ありませんが
10魚種ゲット出来ました。次は何を狙おうかな？

釣り人Nのお魚紹介コーナー

<ロウニンアジうんちく>

スズキ目 アジ科 アジ亜科 ギンガメアジ属 ロウニンアジ

棲んでいるところ：基本海水魚 インド太平洋の熱帯海域に広く分布する。日本近海では、関東地方沿岸まで若魚が到達するが死滅回遊魚。徳島県では成魚は確認していない。

大きさ：全長最大で180cm、80kgに成長する。

食べているもの：肉食性で、小魚・甲殻類・頭足類・鳥類など何でも食べる。

食べ方：若魚は美味。刺身、唐揚げ、煮魚、焼き魚。成魚は、シガテラ毒を持つことがある。旬は秋・冬

<カスマアジうんちく>

スズキ目 アジ科 アジ亜科 ギンガメアジ属 カスマアジ

棲んでいるところ：基本海水魚 インド太平洋の熱帯海域に広く分布する。日本近海では、関東地方沿岸まで若魚が到達するが死滅回遊魚。徳島県では成魚は確認していない。

大きさ：全長最大で117cmになる。普通は、70、80cm程

食べているもの：肉食性で、小魚・甲殻類・頭足類。

食べ方：刺身、唐揚げ、フライ、ソテー、煮魚、焼き魚。成魚は、シガテラ毒を持つことがある。

旬は秋から春

・四国には少ない。50cmくらいになると、ヒシがコバルトブルーになりとてもきれいな魚。



<キタマクラうんちく>

フグ目 フグ亜目 フグ科 キタマクラ属 キタマクラ

棲んでいるところ:海水魚 南日本、インド、西太平洋、ハワイ。

大きさ:体長13cm前後となるとされている。

食べているもの:雑食性でゴカイ類、藻類、軟体動物などを食べる。

食べ方:フグ毒あり、食べてはダメ。

・北枕とは、亡くなった人を北向きに寝かせることから猛毒のフグという意味。

・良く釣れ、鋭い歯で餌・針を取られるため、釣り人の嫌われ者

**<オオスジシモ千うんちく>**

ススキ目 ススキ亜目 テンジクダイ科 スジシモ千属 オオスジシモ千

棲んでいるところ:海水魚 南日本の浅い岩礁域。台湾、フィリピン等

大きさ:体長11cm前後となるとされている。

食べているもの:肉食性 小魚の他、甲殻類等を食べる。

食べ方:唐揚げ、干物で美味しいらしい。旬は？

<ヨコスジシモ千うんちく>

ススキ目 ススキ亜目 テンジクダイ科 カクレテンジクダイ属 ヨコスジシモ千

棲んでいるところ:海水魚 南日本の岩礁域周辺の砂泥底。東シナ海、フィリピン等

大きさ:体長12cm前後。 食べているもの:肉食性 小魚の他、甲殻類等を食べる。

食べ方:練り物の材料となる。旬は？

<ミナミハタンポうんちく>

ススキ目 ススキ亜目 ハタンポ科 ハタンポ属 ミナミハタンポ

棲んでいるところ:海水魚 南日本の浅い岩礁域。台湾南部、インド・西太平洋域。

大きさ:体長12cm前後。 食べているもの:肉食性 小魚の他、甲殻類等を食べる。

食べ方:干し物、煮つけ、刺身。非常に味が良いらしい？ 旬は？

<アカマツカサ属うんちく>

キンメダイ目 イットウダイ科 イットウダイ亜科 アカマツカサ属

棲んでいるところ:海水魚 南日本の岩礁域、珊瑚礁。インド・太平洋等、熱帯・亜熱帯域

大きさ:体長24cm前後。

食べているもの:肉食性 夜間に小魚の他、甲殻類等を食べる。

食べ方:刺身、塩焼き。とっても美味しいらしい？ 旬は？

<ニジエビスうんちく>

キンメダイ目 イットウダイ科 イットウダイ属 ニジエビス

棲んでいるところ:海水魚 南日本の岩礁域、珊瑚礁。インド・太平洋等、熱帯・亜熱帯域

大きさ:体長30cm前後となるとされている。

食べているもの:肉食性 小魚の他、甲殻類等を食べる。

食べ方:刺身、塩焼き、煮物。旬は？